

CNS の真価を発信する機会に

第5回日本 CNS 看護学会 大会長
社会医療法人近森会理事 兼 統括看護部長 岡本 充子



▼精神看護 CNS の久保看護師長 ▼在宅看護 CNS の山本看護師長



6月2日(土)東京都大田区産業プラザ PiO において、およそ 980 名の方に参加いただき、第5回日本 CNS 看護学会を開催しました。

高度実践看護を担う専門看護師(CNS)の活動をより広く世の中に発信していく場として分野(全13分野)持ち回りで CNS 看護学会を開催しており、第5回大会は老人看護分野が担当となり、老人看護 CNS の初回認定



者として私が大会長の大役を担うこととなり、チーム老人看護で準備を進めてきました。

大会のテーマを「高齢多死社会を支える高度実践看護—専門看護師の真価を問う—」とし、大会テーマでの大会長講演、日本看護協会会長 福井トシ子先生による基調講演、シンポジウム、座談会、各種セミナーなどを企画し、口演・ポスター発表も 57 題ありました。近森病院からは、精神看護 CNS の久保博美さん、在宅看護 CNS の山本詩帆さんが活動

報告を行いました。

本学会を通して誕生から死までの時間軸の流れの中で、医療と介護、生活をつなぎ、誰もが住み慣れた地域でその人らしく最期まで暮らせることを支えていくために必要な高度実践看護とは何か、専門領域や立場を超えて議論し、CNS の真価を発信する機会にできたのではないかと考えております。

学会開催においてはさまざまな方々に多方面にわたるご協力をいただきました。この場をお借りしてご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

おかもと じゅんこ



▲前列左から4番目、筆者

近森病院

IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテルの実施設に認定されました。



7月の歳時記

近森病院 7階 A 病棟
看護師 宮下 智子



奈良時代より日本人に親しまれ、花の儂さが一期一会の茶道の精神にも合致するとされ、現代では代表的な夏の茶花として有名で、底紅木槿は千宗旦が好んだことから宗旦木槿とも呼ばれます。

早朝に花を開き、夕方には閉じて

木槿 (むくげ)

しまうことから、人の世の短い栄華を例え、「槿花一朝の夢」という故事もあります。



私の実家でも、毎年夏の間々に花を咲かせ、樹いっぱい咲き誇る木槿をみて元気をもらっています。

みやした ともこ

◀写真も筆者